

# 平成 23 年度登録販売者試験問題 前半

第 1 章 医薬品に共通する特性と基本的な知識 (20 問)

第 3 章 主な医薬品とその作用 (40 問)

受験番号

※試験問題は 1 ページから 30 ページまでに、問 1 から問 60 まであります。試験開始後すぐに試験問題が全てあるか確認してください。もし落丁などがあった場合には速やかに交換を申し出てください。(試験終了後の申し出には対応できません。)

## 第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

### 問1

医薬品の本質に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬品は、人体にとって異物（外来物）である。
- 2 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべて解明されている。
- 3 検査薬は、人体に対して直接使用されることがないため、人の健康に影響を与えることはない。
- 4 医療用医薬品は、一般用医薬品と比較して保健衛生上のリスクは相対的に低い。

### 問2

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、添付文書や製品表示に必要な情報が記載されているため、一般の生活者において、効能、効果や副作用等について誤解を生じることはない。
- b 登録販売者は、一般用医薬品について、常に有効性、安全性等に関する新しい情報の把握に努める必要がある。
- c 薬事法では、健康被害発生の可能性の有無が重要であり、異物等の混入、変質については、特に問題にはならない旨を定めている。
- d 人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていないといけない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問3

医薬品の副作用に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

世界保健機関（WHO）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を（ a ）ために、人に（ b ）量で発現する医薬品の有害かつ（ c ）反応」とされている。

	a	b	c
1	正常化する	通常用いられる	意図しない
2	増強させる	用いられる最少	不快な
3	増強させる	通常用いられる	意図しない
4	増強させる	用いられる最少	意図しない
5	正常化する	通常用いられる	不快な

問4

医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を十分に注意して適正に使用した場合には、副作用が生じることはない。
- b 一般用医薬品においては、通常、重大な副作用を回避することよりも、その使用を中断することによる不利益の方が優先される。
- c 登録販売者は、購入者等に対して、一般用医薬品についての適切な情報提供を行ってれば、副作用の状況にかかわらず、医療機関を受診するよう勧奨する必要はない。
- d 一般用医薬品の副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりである。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問5

次の記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の( )内には同じ字句が入る。

( a )は、本来、細菌やウイルスなどが人体に取り込まれたとき、人体を防御するために生じる反応であるが、( a )機構が過敏に反応して、好ましくない症状が引き起こされることがある。これを( b )という。通常の( a )反応の場合、炎症やそれに伴って発生する痛み、発熱等は、人体にとって( c )ための必要な過程であるが、( b )においては過剰に組織に刺激を与える場合も多く、引き起こされた炎症自体が過度に苦痛を与えることになる。

	a	b	c
1	免疫	アレルゲン	有害なものを体内から排除する
2	代謝	アレルギー	有用なものを体内に取り込む
3	免疫	アレルギー	有害なものを体内から排除する
4	代謝	アレルゲン	有害なものを体内から排除する
5	免疫	アレルギー	有用なものを体内に取り込む

問6

一般用医薬品の使用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 多く飲めば早く効くので、定められた用量を超えて使用してもかまわない。
- b 選択された医薬品が適切ではなく、症状が改善しないまま使用し続けている場合、適切な治療の機会が失われることにもつながりやすい。
- c 小児への使用を避けるべき一般用医薬品であっても、大人の半分の量を服用させるのであれば、有害事象につながる危険性はない。
- d 一般用医薬品には、習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがあり、しばしば乱用されることが知られている。

- 1 ( a、 b)      2 ( a、 c)      3 ( b、 d)      4 ( c、 d)

問7

一般用医薬品の相互作用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 相互作用には、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- 2 複数の医薬品を併用した場合、又は特定の食品と一緒に摂取した場合に、医薬品の作用が増強したり、減弱したりすることを相互作用という。
- 3 副作用や相互作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確である場合には、なるべくその症状に合った成分のみが配合された医薬品が選択されることが望ましい。
- 4 登録販売者は、一般用医薬品の購入者に、同時に使用できない薬剤が医療機関等から交付されている場合には、その交付されている薬剤の使用を中止するよう説明すべきである。

問8

医薬品と他の医薬品や食品との相互作用、飲み合わせに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することが多く、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。
- b 酒類(アルコール)をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が低下していることが多いため、アセトアミノフェンの薬効が増強される。
- c ビタミンAは、ビタミンAを含む医薬品の服用量にさえ注意すれば、過剰摂取になることはない。
- d 生薬成分が配合された医薬品とハーブ等の生薬成分を含む食品をあわせて摂取すると、医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。

- 1 (a、c)      2 (b、c)      3 (b、d)      4 (a、d)

問9

小児の医薬品使用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が長いため、服用した医薬品の吸収率が高い。
- b 乳児では、循環血液中に移行した医薬品の成分が血液脳関門により防御されるため、中枢神経系の副作用は起こりにくい。
- c 一般的に小児は、肝臓や腎臓の機能が発達しているため、医薬品の作用は減弱する。
- d 保護者等に対して、成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるような安易な使用は避け、必ず年齢に応じた用法用量が定められているものを使用するよう説明がなされることが重要である。

- 1 (a、c)      2 (b、c)      3 (b、d)      4 (a、d)

問10

小児の医薬品使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 錠剤やカプセル剤などの医薬品は、そのまま飲み下させることが難しいことが多い。
- b 乳児向けの用法用量が設定されている一般用医薬品については、基本的には医師の診療を受けることよりも、一般用医薬品による対処が優先されることが望ましい。
- c 一般に乳幼児は、容態が変化した場合に、自分の体調を適切に伝えることが難しいため、医薬品を使用した後は、保護者等が乳幼児の状態をよく観察することが重要である。
- d 小児の誤飲・誤用事故を未然に防止するには、家庭内において、小児が容易に手に取れる場所や、小児の目につく場所に医薬品を置かないようにすることが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 11

高齢者の医薬品使用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として65歳以上を指す。
- 2 高齢者が一般用医薬品を定められた用量の下限で使用してもなお作用が強すぎる等の問題が生じる場合は、それ以下に量を減らして服用を続けることが望ましい。
- 3 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって、その症状が悪化する場合がある。
- 4 高齢者では、手先の衰えのため医薬品を容器や包装から取り出すことが難しい場合や、医薬品の取り違いや飲み忘れを起こしやすいなどの傾向がある。

問 12

次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 妊婦は、体の変調や不調を起こしやすいので、原則として、一般用医薬品で症状を緩和することとされている。
- b 一般用医薬品は、多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が困難である。
- c 胎盤には、胎児の血液と母胎の血液とが混ざり合う仕組み（胎盤関門）がある。
- d 一般用医薬品には、便秘薬のように配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 13

プラセボ効果（偽薬効果）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、薬理作用として意図的に生じさせる効果をプラセボ効果という。
- b プラセボ効果は、暗示効果等が関与して生じるものと考えられている。
- c 通常、医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、プラセボ効果によるものも含まれている。
- d プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、すべて望ましいものである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 14

医薬品の品質に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 適切な保管・陳列がなされなければ、効き目が低下したり、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることがある。
- 2 使用期限とは、開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。
- 3 医薬品に配合されている成分が光（紫外線）によって品質の劣化を起こすことがある。
- 4 一般用医薬品は、購入後すぐに使用されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることが望ましい。

問 15

薬事法第25条第1項の一般用医薬品の定義について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が( a )のものであって、( b )その他の医薬関係者から提供された情報に基づく( c )の選択により使用されることが目的とされているもの。

	a	b	c
1	著しい	薬剤師	販売者
2	著しくない	薬剤師	需要者
3	著しい	薬剤師	需要者
4	著しくない	医師	販売者
5	著しい	医師	需要者

問 16

セルフメディケーションと医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが、登録販売者に期待されている。
- b 症状が重いときに、一般用医薬品の使用を促すことは、適切な対処と言える。
- c 一般用医薬品の販売等に従事する専門家の行う情報提供は、必ず医薬品の販売に結びつける必要がある。
- d 一般用医薬品の利用のほか、食事と栄養のバランス、睡眠・休養、運動、禁煙等の生活習慣の改善を含めた健康維持・増進全般について「セルフメディケーション」という場合もある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問 17

医薬品の販売等に従事する専門家が購入者から確認しておきたい基本的なポイントとして正しいものを正、誤っているものを誤とした場合の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- b 何のためにその医薬品を購入しようとしているか。
- c その医薬品を使用する人は本人か、又はその家族等か。
- d その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 18

スモン及びスモン訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スモン訴訟は、解熱鎮痛薬として販売されていたアミノ酸製剤を使用したことにより、薬物依存を形成したことに対する損害賠償訴訟である。
- b スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- c スモン患者に対しては、治療研究施設の整備、治療法の開発調査研究の推進、重症患者に対する介護事業等が講じられている。
- d スモン訴訟を契機として、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 19

H I V 訴訟に関する記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

( a ) 患者が、ヒト免疫不全ウイルス ( H I V ) が混入した原料 ( b ) から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、H I V に感染したことに対する損害賠償訴訟である。

	a	b
1	白血病	血漿 <small>しょう</small>
2	血友病	血漿 <small>しょう</small>
3	血友病	血小板
4	白血病	白血球
5	血友病	白血球

問 20

クロイツフェルト・ヤコブ病 ( C J D ) 及び C J D 訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a C J D 訴訟は、ヒト乾燥硬膜を介して C J D に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b C J D は、細菌の一種であるプリオンが原因とされる。
- c C J D 訴訟では、国を唯一の被告として提訴された。
- d C J D 訴訟を契機として、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

### 第3章 主な医薬品とその作用

#### 問 21

かぜ薬に配合される成分とその配合目的との関係のうち、正しいものはどれか。

(成分)		(配合目的)
1 塩酸ブロムヘキシン	－	発熱を鎮め、痛みを和らげる。
2 メキタジン	－	鼻汁分泌を抑える。
3 ノスカピン	－	炎症による腫れを和らげる。
4 サリチルアミド	－	鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡げる。
5 トラネキサム酸	－	痰の切れを良くする。

#### 問 22

第1欄の記述は、かぜの諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第2欄のどれか。

##### 第1欄

かぜのひき始めから数日たって症状が少し長引いている状態で、疲労感があり、食欲不振、吐き気がする場合に適すとされ、また、胃腸虚弱、胃炎のような消化器症状にも用いられるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）には不向きとされる。

インターフェロン製剤で治療を受けている人では、間質性肺炎の副作用が現れるおそれが高まるため、使用を避ける必要がある。

##### 第2欄

- 1 葛根湯
- 2 麻黄湯
- 3 小柴胡湯
- 4 小青竜湯
- 5 桂枝湯

問 23

アセトアミノフェンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ピリン系の解熱鎮痛成分である。
- b 他の解熱鎮痛成分のような胃腸障害は比較的少ないとされ、空腹時に服用できる製品もある。
- c 一般用医薬品では、小児に対してはいかなる場合も使用しないこととなっている。
- d 定められた用量を超えて使用した場合や、日頃から酒類（アルコール）をよく摂取する人は、肝機能障害を起こしやすい。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問 24

次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 解熱鎮痛薬の使用は、痛みや発熱を一時的に和らげる対症療法であって、それらの原因を根本的に解消するものではない。
- 2 解熱鎮痛薬は、頭痛の症状が軽いうちに服用するのが効果的であり、症状が現れないうちに予防的に使用することが適切である。
- 3 イブプロフェンは、解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）による胃腸障害を低減させることを目的として、配合されている場合がある。
- 4 ジリュウは、骨格筋の緊張に關与する中枢神経系（脊髄）の刺激反射を抑える作用を示し、いわゆる「筋肉のこり」を和らげることを目的として用いられる。

問 25

眠気を促す薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的な不眠症状の緩和に用いられるものであり、一時的な睡眠障害（寝つきが悪い、眠りが浅い）に用いられるものではない。
- b 少量でも眠気を催しやすく、重大な事故につながるおそれがあるため、ブロムワレリル尿素が配合された医薬品を使用した後は、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。
- c 酸棗仁湯<sup>さんそうにんとう</sup>を1週間位服用して症状の改善がみられない場合には、漫然と服用を継続せず、医療機関を受診することが望ましい。
- d アルコールの摂取により、塩酸ジフェンヒドラミンの効き目が減弱される。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問26

カフェインに関する記述について、(      )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

脳に軽い ( a ) 状態を引き起こす作用を示し、眠気や倦怠感<sup>けん</sup>を一時的に抑える効果が期待される。

眠気防止薬の薬効に関連しない作用として、尿量の ( b ) をもたらす。

安全使用の観点から留意すべき作用としては、胃液の分泌を ( c ) させる作用があり、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐<sup>おう</sup>）が現れることがある。

	a	b	c
1	興奮	増加	抑制
2	興奮	減少	抑制
3	興奮	増加	亢進 <sup>こう</sup>
4	鎮静	増加	亢進 <sup>こう</sup>
5	鎮静	減少	抑制

問27

小児の疳<sup>かん</sup>を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。
- b 作用が穏やかで小さな子供に使っても副作用が無い。
- c ジンコウはウシ科のサイガレイヨウの若い角を用いた生薬で、緊張や興奮を鎮め、また、血液の循環を促す作用等を期待して用いられる。
- d 桂枝加竜骨牡蛎湯<sup>けいしかりゆうこつぼれいとう</sup>は、構成生薬としてカンゾウを含み、乳幼児に使用する場合、体格の個人差から体重当たりのグリチルリチン酸の摂取量が多くなることがあるので留意される必要がある。

- 1 (a、c)      2 (b、c)      3 (b、d)      4 (a、d)

問 28

鎮咳去痰薬<sup>がいたん</sup>に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a マレイン酸クロルフェニラミンは、気道粘膜からの粘液分泌を促進する作用を示す。
- b リン酸コデインは胃腸の運動を低下させる作用があり、副作用として便秘が現れることがある。
- c 塩酸メチルエフェドリンは、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる成分である。
- d マオウは、心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害<sup>せん</sup>の診断を受けた人では、その症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 29

第1欄の記述は、鎮咳去痰薬に配合されることがある生薬成分に関するものである。該当する成分は第2欄のどれか。

第1欄

この成分の摂取により糖尿病の検査値に影響を生じることがあり、糖尿病が改善したと誤認されるおそれがある。このため、1日最大配合量が原生薬として1.2g以上を含有する製品では、使用上の注意において成分及び分量に関連する注意として記載されている。

第2欄

- 1 キョウニン
- 2 ナンテンジツ
- 3 シャゼンソウ
- 4 キキョウ
- 5 セネガ

問 30

口腔咽喉薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 殺菌消毒成分が配合され、口腔及び咽頭の殺菌・消毒等を目的とする製品がある。
- b トローチ剤やドロップ剤は、噛み砕いて飲み込んでしまうと効果は期待できない。
- c ユーカリは、咽頭粘膜をひきしめる（収斂）作用のほか、抗菌作用も期待して用いられる。
- d 塩化リゾチームは、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンC等の成分と反応すると脱色を生じて殺菌作用が失われる。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問31

胃の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩化カルニチンはアルミニウムを含む成分であるため、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。
- b メタケイ酸アルミン酸マグネシウムは、胃酸の中和作用のほか、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もあるとされる。
- c ウルソデオキシコール酸は、胎児毒性の可能性があるので、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。
- d 過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して、副交感神経の伝達物質であるアセチルコリンの働きを抑えるロートエキスが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 32

第1欄の記述は、胃の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第2欄のどれか。

第1欄

胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすい人における、胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐に適すとされる。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。

第2欄

- 1 薏苡仁湯 よぐい にんとう
- 2 呉茱萸湯 ごしゆゆ とう
- 3 加味帰脾湯 かみ きひ とう
- 4 麦門冬湯 ばくもんとう とう
- 5 六君子湯 りっくん し とう

問 33

胃腸に作用する薬に配合される成分とその配合目的との関係のうち、正しいものはどれか。

(成分)	(配合目的)
1 リュウタン	－ 大腸を刺激して排便を促す。
2 オウバク	－ 中和反応によって胃酸の働きを弱める。
3 アカメガシワ	－ 胃粘膜を保護する。
4 ボレイ	－ 細菌感染による下痢の症状を鎮める。
5 センナ	－ 苦味により、弱った胃の働きを高める。

問 34

ヒマシ油に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a マメ科エビスグサの種子を圧搾して得られた油を用いた生薬である。
- b 瀉下薬としては比較的作用が穏やかなため、3歳未満の乳幼児に用いられる。
- c 吸収された成分の一部が乳汁中に移行して、乳児に下痢を引き起こすおそれがあり、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける必要がある。
- d 主に誤食・誤飲等による中毒の場合など、腸管内の物質をすみやかに体外に排除させなければならない場合に用いられる。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 35

胃腸鎮痛鎮痙薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸パパペリンは、胃痛、腹痛、さしこみ（疝痛、癩）を鎮めること（鎮痛鎮痙）のほか、胃酸過多や胸やけに対する効果も期待して用いられる。
- b アミノ安息香酸エチルは、消化管の粘膜及び平滑筋に対する麻酔作用による鎮痛鎮痙の効果も期待して配合される。
- c 排尿困難の症状がある人、心臓病又は緑内障の診断を受けた人では、ロートエキスの使用により、症状の悪化を招くおそれがある。
- d オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされ、妊娠中や小児における安全性が確立されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 36

次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 浣腸薬は、繰り返し使用すると直腸の感受性が高くなり、効果が増強されるため、連用することが望ましい。
- b グリセリンが配合された浣腸薬は、肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用されると、赤血球の破壊（溶血）を引き起こすおそれがある。
- c 駆虫薬は腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばないため、再度駆虫を必要とする場合には、1 ヶ月以上間隔を置いてから使用することとされている。
- d サントニンは、赤～赤褐色の成分で、尿や糞便が赤く着色することがある。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問 37

強心薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 シンジュは、ウグイスガイ科のアコヤガイ等の殻内肉組織中に形成される球状の塊を粉末にしたもので、鎮静作用等を期待して用いられる。
- 2 ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢<sup>のう</sup>中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- 3 ロクジョウは、シカ科のシベリアジカ、マンシュウアカジカ等の雄の幼角を用いた生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- 4 苓桂朮甘湯<sup>りょうけいじゆつかんとう</sup>は、心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用があるとされる。

問 38

血中コレステロールと高コレステロール改善薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 血液中の低密度リポ蛋白質<sup>たん</sup>（LDL）が多く、高密度リポ蛋白質<sup>たん</sup>（HDL）が少ないと、コレステロールの運搬が末梢組織側に偏ってその蓄積を招き、心臓病や肥満、動脈硬化症等の生活習慣病につながる危険性が高くなる。
- 2 大豆油不飽和物<sup>けん</sup>（ソイステロール）には、肝臓におけるコレステロール代謝を正常化する働きがあるとされる。
- 3 リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなった場合、使用を中止し、医療機関を受診するよう促すべきである。
- 4 高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの瘦身<sup>そう</sup>効果を目的とする医薬品である。

問 39

第 1 欄の記述は、貧血用薬に配合される金属成分に関するものである。該当するものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミン B<sub>12</sub> の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的でこの化合物が配合されている場合がある。

第 2 欄

- 1 マンガン
- 2 鉄
- 3 コバルト
- 4 銅
- 5 亜鉛

問 40

ユビデカレノンに関する記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

( a ) などの臓器に多く存在し、( b ) に関与する酵素の働きを助ける成分で、別名コエンザイム Q10 とも呼ばれる。

( c ) の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされ、軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し越えたときに起こる動悸、息切れ、むくみの症状に用いられる。

	a	b	c
1	肝臓や心臓	エネルギー代謝	心筋
2	胃や小腸	消化	平滑筋
3	胃や小腸	エネルギー代謝	骨格筋
4	肝臓や心臓	エネルギー代謝	平滑筋
5	胃や小腸	消化	心筋

問 41

痔及び痔疾用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 痔核は、肛門の出口からやや内側の上皮に傷が生じた状態である。
- b 痔瘻は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状の腫れが生じたものである。
- c 外用痔疾用薬は、局所に適用されるものであるが、坐剤及び注入軟膏では成分の一部が直腸粘膜から吸収されて循環血流中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。
- d 内用痔疾用薬は、比較的緩和な抗炎症作用、血行改善作用を目的とする成分のほか、瀉下・整腸成分等が配合されたもので、外用痔疾用薬と併せて用いると効果的である。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問 42

内用痔疾用薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 コハク酸トコフェロールは、肛門周囲の末梢血管の血行を促して、鬱血を改善する効果を期待して配合されている場合がある。
- 2 カイカは、マメ科のエンジュの花及び蕾を用いた生薬で、主に抗炎症作用を期待して用いられる。
- 3 セイヨウトチノミは、トチノキ科のセイヨウトチノキの種子を用いた生薬で、主に止血効果を期待して用いられる。
- 4 芎帰膠艾湯は、大便が硬くて便秘傾向がある人における、痔核、切れ痔、便秘の症状に適すとされる。

問 43

第 1 欄の記述は、婦人用薬として用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第 2 欄のどれか。

第 1 欄

女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられ、構成生薬としてダイオウを含む。

第 2 欄

- 1 うんけいとう  
温経湯
- 2 けいしぶくりょうがん  
桂枝茯苓丸
- 3 とうきしやくやくさん  
当归芍薬散
- 4 とうかくじょうきとう  
桃核承気湯
- 5 ごしやくさん  
五積散

問 44

婦人用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 女性ホルモンの一種であるエストラジオールは、一般用医薬品では内服薬のみ配合が認められている。
- b 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって、胎児の先天性異常が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性は、使用を避ける必要がある。
- c サフランは、鎮静、鎮痛作用のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合される場合がある。
- d 内服で用いられる婦人用薬は、比較的作用が穏やかで、ある程度長期間使用されることを前提としており、他の婦人用薬の併用により副作用が起こるおそれはない。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問45

アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む）に用いられる成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ベラドンナ総アルカロイドは、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として配合されている場合がある。
- 2 ブロメラインは、皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として配合されている場合がある。
- 3 ジフェンヒドラミンは乳汁に移行しないため、この成分を含む製品は母乳を与える女性でも使用することができる。
- 4 塩酸プソイドエフェドリンが配合された鼻炎用内服薬は、医療機関でパーキンソン病の治療を受け、塩酸セレギリンが処方されている人では、使用を避ける必要がある。

問46

鼻炎用点鼻薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 蓄膿症<sup>のう</sup>は、一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の適用対象となっていない。
- b 鼻炎用点鼻薬は局所（鼻腔<sup>くう</sup>内）に適用されるものであり、全身的な影響を生じることはない。
- c 鼻粘膜が腫れてポリープ<sup>は</sup>（鼻茸<sup>たけ</sup>）となっている場合には、一般用医薬品のスプレー式鼻炎用点鼻薬の使用が効果的である。
- d 塩酸テトラヒドロゾリンは、鼻粘膜の充血や腫れ<sup>は</sup>を和らげることを目的として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問47

眼科用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 点眼薬は、点眼の際に容器の先端が眼瞼（まぶた）や睫毛（まつげ）に触れないように注意しながら1滴ずつ正確に点眼する。
- b 洗眼薬は、主に目の洗浄に用いられ、眼病予防に用いられるものはない。
- c 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものがある。
- d 点眼薬は、一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではなく、むしろ鼻粘膜や喉から吸収されて、副作用を起こしやすくなる。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問48

点眼薬に用いられる成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a スルファメトキサゾールは、細菌感染（ブドウ球菌や連鎖球菌）による結膜炎等の化膿性の症状を改善することを目的として用いられる。
- b コンドロイチン硫酸ナトリウムは、結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。
- c メチル硫酸ネオスチグミンは、眼粘膜の蛋白質と結合して皮膜を形成し、外部の刺激から保護することを目的として用いられる。
- d リン酸水素ナトリウムは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促すことを目的として用いられる。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 49

第1欄の記述は、きず口等の殺菌消毒成分に関するものである。第1欄の記述に該当する成分として最も適するものは第2欄のどれか。

第1欄

酸化作用により、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。アルカリ性になると殺菌力が低下するため、石鹼等と併用する場合には、石鹼分をよく洗い落としてから使用することが望ましい。

第2欄

- 1 マーキュロクロム
- 2 オキシドール
- 3 塩化ベンザルコニウム
- 4 アクリノール
- 5 ポビドンヨード

問 50

ステロイド性抗炎症成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 外皮用薬で用いられるステロイド性抗炎症成分は、体の一部分に生じた湿疹、皮膚炎、かぶれ、あせも、虫さされ等の一時的な皮膚症状（ほてり・腫れ・痒み等）の緩和を目的として用いられる。
- b 水痘（水疱瘡）、みずむし、たむし等又は化膿している患部については症状を悪化させるおそれがあり、使用を避ける必要がある。
- c ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1 g 又は1 mL 中 0.025 mg を超えて含有する製品では、特に長期連用を避ける必要がある。
- d 末梢組織の免疫機能を向上させる作用を示し、細菌、真菌、ウイルス等による皮膚感染を防止する効果が期待される。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 51

外皮用薬に配合される成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 インドメタシンは、<sup>ぜん</sup>喘息の副作用を引き起こす可能性があるため、<sup>ぜん</sup>喘息を起こしたことがある人では、使用を避ける必要がある。
- 2 ケトプロフェンは、まれに重篤な副作用として光線過敏症を生じることがある。
- 3 ジフェニルイミダゾールは、分子内に副腎皮質ホルモンと共通する化学構造を持ち、プロスタグランジンの産生を抑えることにより、抗炎症作用を示す。
- 4 尿素は、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として用いられる。

問52

歯や口中に用いる薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 塩酸ジブカインは、<sup>う</sup>齶蝕を生じた部分における細菌の繁殖を抑えることを目的として用いられる。
- 2 グルコン酸クロルヘキシジンが口腔内に適用される場合、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。
- 3 歯周組織の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸二カリウムが配合されている場合がある。
- 4 炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して、フィトナジオン（ビタミン K<sub>1</sub>）が配合されている場合がある。

問 53

みずむし・たむし等の治療に用いる薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか

- a 一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、軟膏又はクリームが適すとされている。
- b 湿疹とみずむし等の初期症状は類似していることが多く、湿疹に抗真菌作用を有する成分を使用しても、湿疹の悪化を招くことはない。
- c 2週間位使用しても症状が良くならない場合には、別の抗真菌成分が配合された製品に切り換えて使用することが望ましい。
- d 塩酸ブテナフィン<sup>TM</sup>は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問 54

滋養強壯保健薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬部外品として扱われる保健薬の効能・効果の範囲は、神経痛、筋肉痛、関節痛、しみ・そばかす等のような特定部位の症状に限定されている。
- 2 医薬品として扱われる保健薬の効能・効果の範囲は、滋養強壯、虚弱体質の改善、病中・病後の栄養補給等に限定されている。
- 3 医薬部外品として扱われる保健薬の配合成分や分量は、人体に対する作用が緩和なものに限られ、生薬成分としては、カシュウ、ゴオウ、ゴミシ、ジオウ、ロクジョウが配合されている。
- 4 ビタミン成分について、1日最大量が規定値を超えるものは、医薬品としてのみ認められている。

問 55

ビタミン主薬製剤（いわゆるビタミン剤）に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ビタミンB<sub>1</sub>主薬製剤は、酪酸リボフラビン又はリン酸リボフラビンナトリウムが主薬として配合された製剤である。
- 2 ビタミンB<sub>2</sub>主薬製剤は、塩酸チアミン又は硝酸チアミンが主薬として配合された製剤である。
- 3 ビタミンB<sub>6</sub>主薬製剤は、塩酸ピリドキシン又はリン酸ピリドキサーールが主薬として配合された製剤である。
- 4 ビタミンD主薬製剤は、酢酸レチノール又はパルミチン酸レチノールが主薬として配合された製剤である。

問 56

漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 漢方の考え方として重要なものは、患者の証（体質及び症状）及び陰陽五行説<sup>いんようごぎょう</sup>である。
- b 漢方処方製剤の使用により、肝機能障害のような重篤な副作用を起こすことはない。
- c 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
- d 漢方処方を構成する生薬には、複数の処方でも共通しているものもあり、同じ生薬を含む漢方処方製剤が併用された場合、作用が強くなり、副作用を生じやすくなるおそれがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 57

消毒薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a トリクロロイソシアヌル酸等の有機塩素系殺菌消毒成分は、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。
- b クレゾール石鹼液は、一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して広い殺菌消毒作用を示す。
- c エタノール、イソプロパノールは、アルコール分が微生物の蛋白質を変性させ、一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- d 次亜塩素酸ナトリウムは、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対し殺菌消毒作用を示し、皮膚刺激性も弱いため、人体の消毒によく用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 58

殺虫剤に関する記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

プロポクスルは、代表的な ( a ) 系殺虫成分であり、殺虫作用は、コリンエステラーゼと ( b ) に結合してその働きを阻害することによる。一般に ( c ) 系殺虫成分に比べて毒性は ( d ) 。

	a	b	c	d
1	有機リン	不可逆的	カーバメイト	高い
2	カーバメイト	可逆的	有機リン	低い
3	有機リン	可逆的	カーバメイト	低い
4	カーバメイト	不可逆的	有機リン	高い
5	有機リン	不可逆的	カーバメイト	低い

問 59

衛生害虫及びその防除を目的とする殺虫剤・忌避剤に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 殺虫剤・忌避剤のうち、人体に対する作用が緩和な製品については医薬部外品として製造販売されているが、人体に対する作用が緩和といえない製品については医薬品として扱われる。
- b ヒトに寄生するシラミによる保健衛生上の害として、吸血箇所<sup>かゆ</sup>の激しい痒みと日本紅斑熱<sup>ほん</sup>や発疹チフス<sup>しん</sup>等の病原細菌であるリケッチアの媒介<sup>がい</sup>があげられる。
- c ピレスロイド系殺虫成分は、昆虫の脱皮や変態を阻害する作用を有する成分である。
- d イエダニは、ヒトを刺すことはないが、ダニの糞<sup>がい</sup>や死骸<sup>がい</sup>がアレルギー<sup>ぜん</sup>となって気管支喘息やアトピー性皮膚炎などを引き起こすことがある。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問60

体外診断用医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊娠検査薬は、妊娠の早期判定の補助として尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン<sup>じゅうせん</sup>（hCG）の有無を調べるものである。
- b 体外診断用医薬品は、すべて一般用医薬品（一般用検査薬）に分類される。
- c 生体から採取された検体には予期しない妨害物質や化学構造がよく似た物質が混在することがあり、いかなる検査薬においても擬陰性<sup>ぎ</sup>・擬陽性<sup>ぎ</sup>を完全に排除することは困難である。
- d 尿蛋白<sup>たん</sup>の検査の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、激しい運動の直後は避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

◎この問題用紙は、指示があるまで開いてはいけません。  
受験者は必ず、次の注意事項を試験開始前によく読んでください。

## 注 意 事 項

- 1 問題用紙は、前半、後半ごとに1冊につづってあります。
- 2 問題の内容についての質問には答えません。
- 3 用件のあるときは、だまって手をあげ、係員の指示を受けてください。
- 4 解答用紙は、折ったり曲げたりしないでください。
- 5 試験開始の合図とともに、受験番号を解答用紙の決められた欄に正しく記入した上で、各位の数字の  欄に、 とマークすること。

なお、受験番号は受験票に記載されている5ケタの番号です。

- 6 試験問題は、前半が第1章（問1から問20まで）及び第3章（問21から問60まで）、後半が第2章（問1から問20まで）、第4章（問21から問40まで）及び第5章（問41から問60まで）の問題です。
- 7 各問題には、1から4までの四つの選択肢又は1から5までの五つの選択肢が書いてあります。そのうち、問題の解答として最もふさわしいと思われる番号を一つ選び、解答用紙の同じ番号の  欄に、解答例にならい、 とマークすること。

なお、一つの問題に二つ以上マークしたものは、無効となり正解とみなしません。

(解答例)

問 1 次のうち、静岡県の県庁所在地として、正しいものはどれか。

- (1) 沼津市
- (2) 静岡市
- (3) 浜松市
- (4) 富士市

(解答用紙)

問題番号		解 答 番 号				
	問 1	<input type="text"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	問 2	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

- 8 解答のマークは鉛筆（HB以上の濃い鉛筆）で濃く、はっきりとマークすること。
- 9 解答をまちがえたときは、消しゴムで「あとかた」のないようにきれいに消し、問題の解答として最もふさわしいと思われる番号の  欄にマークしなおすこと。
- 10 この問題用紙には、表紙に受験番号を記入してください。
- 11 問題用紙は、後半試験終了後に持ち帰りすることができます。
- 12 問題用紙の持ち帰りをしない場合には、問題用紙の表紙に×印をつけて退出してください。
- 13 最後に、受験番号が解答用紙に正しくマークされているか、いま一度受験票と対照して確認してください。